

看護師が患者から情報収集する際の患者への利用目的の通知の現状について

佐藤 真也¹⁾ 太田 勝正²⁾ 新實 夕香理²⁾ 井口 弘子³⁾

愛知県厚生農業協同組合連合会海南病院¹⁾ 名古屋大学医学部保健学科²⁾
中部大学生命健康学部保健看護学科³⁾

Do Nurses Notify the Purpose of Data Gathering to the Patients?

Sato Shinya¹⁾ Ota Katsumasa²⁾ Niimi Yukari²⁾ Iguchi Hiroko³⁾

Kainan Hospital Aichi Prefectural Welfare Federation of Agricultural Cooperatives¹⁾
Nagoya University, School of Health Sciences²⁾
Chubu University, College of Life and Health Sciences³⁾

Since the enforcement of the Act on the Protection of Personal Information (hereinafter referred to as the Act), and the Guidelines for Individual Information Protection in the Field of Medical Services (hereinafter referred to as the Guidelines), three years have already passed. In the meantime, many of medical institutions have made various efforts for coping with the restrictions etc. concerning the collection and handling of patient information. On the other hand, the Guidelines specify the following. When "the purpose of data gathering assumed in the routine practice" is posted in the hospital building, it shall be construed that the "implied consent" is obtained from a patient. As a result, the medical staff is substantially exempt from many of the routine restrictions. It is pointed out that the consciousness of medical staff about the handling of patient information has not been improved much. In this research, we attempted to clarify the present situation of "notification of the purpose of data gathering" of patient information, which is one of requirements of the Act and the Guidelines. We surveyed it as reported here.

We surveyed 81 hospitals having 100 or more beds and located in Prefecture A. The survey was based on approval of the Ethics Committee. We received replies from 21 nursing managers and 241 staff nurses in 26 hospitals. More than 90% of the hospitals replied that "the purpose of data gathering assumed in the routine practice" is posted in the hospital building. But, about half of the staff nurses did not correctly understand its contents. On the other hand, 58% of staff nurses notified patients of "the purpose of data gathering", always or as necessary, when they gathered initial information from inpatients. And 66% replied that they actively addressed the issue of protection of patient information. As mentioned above, when "the purpose of data gathering assumed in the routine practice" is posted in the hospital building, it shall be construed that the "implied consent" has been obtained from the patient. The staffs do not necessarily need the routine notification of the purpose of data gathering. The result of this study shows, however, that comparatively many staff nurses notify actively the purpose of data gathering to the patients. It suggests that the concept of the Act has penetrated to clinical sites to some extent. When data is gathered from patients, the purpose must be notified to patients. It is the first step of protection of patient's right to control personal information. Notification of the purpose of data gathering is expected to spread more in future.

Keywords: Data Gathering, Patient Information, Notification of Purpose, Nurse

1. はじめに

2003年5月に、「個人情報の保護に関する法律(以下,個人情報保護法)」が成立し(2005年4月1日全面施行),医療機関に対しては,2004年12月に厚生労働省より「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン(以下,ガイドライン)」が提示された。これらにより,医療・介護関係事業者は,個人情報を取得するに当たって,あらかじめその利用目的を公表しておくか,個人情報を取得した場合,速やかに,その利用目的を,本人に通知し,又は公表しなければならないことになっている。

しかし今まで,医療機関で働く職員は患者情報を取扱うにあたって,患者の個人情報の保護という意識より,業務を安全に遂行することや効率良く業務を進めることに重点が置かれてきた^{1,2)}。個人情報保護法の施行以降,個人情報保護に対する過剰反応が社会全体に広がっている一方で,多くの個人情報を収集している医療者,特に看護師の個人情報保護に対する意

識に多少の変化があるものの,実際の対応においては施行以前とあまり変わっていない³⁾という指摘がある。また,個人情報の電子化による一元管理や,複数箇所でのアクセスが,セキュリティや情報操作に関するモラルの徹底等,プライバシー保護や情報の扱いについての多くの課題を残し,情報保護の重要性は認識しているものの情報を保護する為の具体的方法を知らず,実際に実践できていない⁴⁾などの報告もある。つまり,カルテの電子化によって患者情報の参照・共有が容易になったものの,患者情報の保護や管理に対する意識はまだ十分ではない状況の一端が明らかになってきている。

今回の研究では,個人情報の取得に際しての「利用目的」の通知に焦点を当て,病院の個人情報保護に対する取組みと,看護師の個人情報保護に対する捉え方や取組みを明らかにすることを目的として,調査を行ったので報告する。

2. 研究方法

2.1 調査対象

WAM NET(独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイト)を利用しA県内の100床以上、かつ精神科が主体ではない病院162施設を選択し、その中から無作為に半数81施設を抽出して調査対象とした。病院としての「利用目的」の通知・公表の実態については、対象施設の看護管理者1名に回答を求め、さらに、調査への協力が得られた病院について、了解が得られた病棟ごとに1病棟あたり臨床経験3年未満のスタッフナースを2名、5年以上のスタッフナースを2名の計4名ずつに日常看護における「利用目的」の通知の実態や個人情報保護への取り組みなどについて回答を求めた。

2.2 調査方法および調査内容

本調査は、郵送法による質問紙調査により2007年7月6日～8月10日に実施した。

看護管理者への調査内容は、(1)属性、(2)病院の医療情報の電子化の状況、(3)利用目的の通知・公表の方法とした。スタッフナースへの調査内容は、(1)属性、(2)所属病棟の医療情報の電子化の状況、(3)病院における利用目的の掲示についての把握状況、(4)入院時の初回情報収集および日常看護における情報収集の際の利用目的の通知の状況などに関する質問項目によって構成した。

回答は、SPSS ver.13にて集計および統計解析を行った。

2.3 倫理的配慮

調査票は無記名とし、調査の趣旨、アンケートへの協力は任意であり協力の有無による利益や不利益はないことなどを調査依頼文に明記して調査協力の同意を求めた。なお、調査は所属機関の倫理委員会の承認を得てから実施している。

3. 調査結果

3.1 対象病院の属性

調査を依頼した81病院のうち、21病院(25.9%)から協力が得られた。病院の規模は、「100～399床」が13件(61.9%)、「400～699床」が6件(28.6%)、「700床以上」が1件(4.8%)であり、病院の設置主体は、「国公立(独立行政法人含む)」が8件(36.1%)、「医療法人」が7件(33.3%)、「日赤・厚生連・済生会・国保等」が3件(14.3%)という状況であった。

病院情報システムの電子化については、図1に示すように(複数回答)、外来については、「電子カルテ」4件(19.0%)、「オーダーリング」13件(66.7%)、「検査結果の参照システム」13件(61.9%)、「看護経過記録」5件(23.8%)、「温度板(体温表)」5件(23.8%)、「看護計画支援システム」5件(23.8%)、「勤務表(看護職)」10件(47.6%)であった。

病棟については、「電子カルテ」5件(23.8%)、「オーダーリング」15件(71.4%)、「検査結果の参照システム」13件(61.9%)、「看護経過記録」7件(33.3%)、「温度板(体温表)」8件(38.1%)、「看護計画支援システム」8件(38.1%)、「勤務表(看護職)」11件(52.4%)という状況であった。

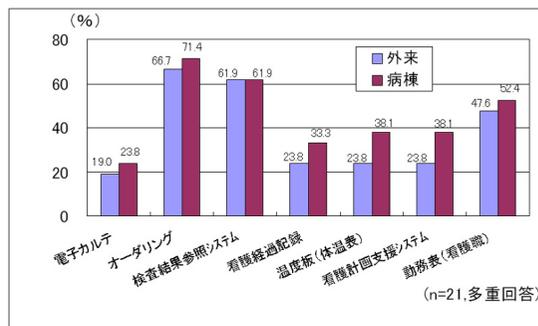


図1 対象施設における電子化の状況

3.2 病院における「利用目的」の通知または公表の状況

患者の個人情報の取得に際して、病院としてどのように「利用目的」を通知または公表しているかの結果を図2に示す(複数回答)。図に示すように、「院内に掲示している」が19件(90.5%)、「しおり(入院のしおり等)、パンフレット等に示して配布している」が8件(38.1%)、「病院のホームページに掲載している」が6件(28.6%)、「受診や入院の際に口頭で説明している」が2件(9.5%)であり、一方、「特に通知または公表していない」が1件(4.8%)あった。「院内掲示」の場所については、「病院の入口や玄関」が最も多く13件(61.9%)、次いで「病棟の入口や廊下」が10件(47.6%)、「新患受付コーナ」が5件(23.8%)、「診療科ごとの待合室」が2件(9.5%)、「その他の場所(院内の掲示板等)」が8件(38.1%)であった(複数回答)。

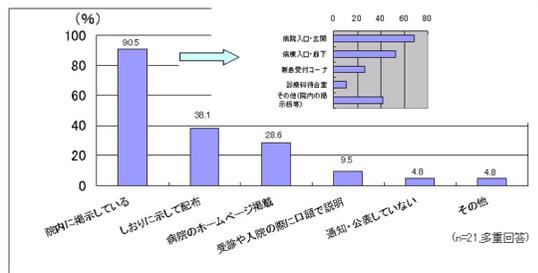


図2 「利用目的」の通知・公表の方法

3.3 回答したスタッフナースの属性

調査票を配布したスタッフナース350名中241名から回答を得た(回収率68.9%)。教育背景は、3年課程の専門学校・短期大学が161名(66.8%)、4年制大学が44名(18.3%)、その他が35名(14.5%)、また、看護師としての経験年数(助産師経験含む)は、3年未満が94名(39.0%)、3年以上10年未満が84名(34.9%)、10年以上が63名(26.1%)であった。所属科は、内科系が50名(20.7%)、外科系が64名(26.6%)、内科外科混合が61名(25.3%)、小児が12名(5.0%)、母性が12名(5.0%)、精神が3名(1.2%)、その他が24名(10.0%)であった。

3.4 利用目的の通知の現状

3.4.1 「利用目的」の掲示の状況

「利用目的」の院内への掲示について、スタッフナースにも個別に質問した。その結果、124名が「掲示されている」と回答したが、その結果を3-2項に示した看護管理者からの回答と照合したところ、両者が一致していたのは116名(48.1%)であった。なお、わからないという回答と看護管理者の回答と一致していない回答を併せると125名(51.9%)であった。

「院内に掲示している」と正しく回答した116名に対して、掲示物の患者にとっての見やすさを尋ねた。その結果、(1)目に留まりやすい場所に貼ってあると回答した者が105名(92.1%)、(2)患者に読みやすい大きさの文字で書かれていると回答した者が90名(81.8%)、(3)質問や異議申し立てのための窓口が明示されていると回答した者が85名(81.0%)であった。

3.4.2 入院時初回情報収集時の「利用目的」通知について

入院時初回情報収集(アナムネ等)の際の「利用目的」通知の状況について尋ねた。その結果、「どのような患者に対しても、必ず説明する」が58名(24.1%)、「患者によって、説明する時としない時がある」が82名(34.0%)、「説明していない」が81名(33.6%)などであった。

「患者によって、説明する時としない時がある」と回答した82名に、主としてどのような患者の場合に説明をしているかを選択肢を示して尋ねたところ、「患者に聞かれたら説明する」が最も多く53名(64.6%)、次いで「患者の家族に聞かれたら説明する」が46名(56.0%)、「入院が初めての患者には説明する」が42名(51.2%)、「自分の時間に余裕がある時は説明する」が8名(9.8%)、「その他、情報収集についての患者の理解や了解が必要だと判断した時に説明する」が24名(29.3%)であった。

なお、院内に「利用目的」が掲示されていないと回答したスタッフナース14名について入院時初回情報収集の際の「利用目的」の通知を調べたところ、「どのような患者に対しても、必ず説明する」が5名(35.7%)、「患者によって、説明する時としない時がある」が4名(28.6%)、「説明していない」が5名(35.7%)であった。

入院時の初回情報収集の際の「利用目的」通知の状況について、スタッフナースの所属科等による違いを表1に示す。「所属科」では、「内科系」が他科より、入院時初回情報収集の際に「利用目的」の通知を「どのような患者に対しても、必ず説明する」と回答している者の率が高かった($p<0.05$)。「利用目的」の掲示を正しく把握している者と把握していない者では、「正しく把握していない者」の方が「正しく把握している者」より、入院時初回情報収集の際に「利用目的」の通知を「していない」と回答している率が高かった($p<0.01$)。「医療情報の電子化の状況」では、「1つ以上が電子化されている病院の者」が「何も電子化されていない病院の者」より、入院時初回情報収集の際に「利用目的」の通知を「していない」と回答している者の率が高かった($p<0.05$)。

3.4.3 日常看護における一般状態の情報収集の際の「利用目的」通知について

日常看護における一般状態の情報収集の際の「利用目的」通知は、「毎回必ず説明する」が22名(9.1%)、「説明する時としない時がある」が50名(20.7%)、「日常的な情報収集の際には、特に説明していない」が150名(62.2%)であった。

「説明する時としない時がある」と回答した50名に、どのような場合に説明をするかを選択肢を示して尋ねたところ、「患者に聞かれたら説明する」が最も多く32名(64.0%)、「手術や大きな検査のための情報収集の際には必ず説明する」が31名(62.0%)、「患者の家族に聞かれたら説明する」が28名(56.0%)、「その日の最初の情報収集の際には説明する」が13名(26.0%)であった。

また、院内に「利用目的」が掲示されていないと回答したスタッフナース14名の日常看護における情報収集の際の「利用目的」の通知を調べたところ、「毎回必ず説明する」が1名(7.1%)、「説明する時としない時がある」が3名(21.4%)、「日常的な情報収集の際には、特に説明していない」が10名(71.4%)であった。

なお、表2に示すように、院内の「利用目的」の掲示について「正しく把握していない者」の方が、「正しく把握している者」より、日常看護における一般状態の情報収集の際の「利用目的」を通知しない率が高く($p<0.01$)、また、入院時初回情報収集時に「利用目的」を「説明していない」と回答した者は、日常看護における一般状態の情報収集の際の「利用目的」も通知していない率が高かった($p<0.01$)。

3.5 スタッフナースの患者情報保護への取組みについて

スタッフナース自身の患者の個人情報の保護への取組みについては、「非常に熱心に取組んでいる」が12名(5.0%)、「ある程度、熱心に取組んでいる」が159名(66.0%)、「あまり熱心には取組んでいない」が32名(13.3%)であり、「無関心である」はなかった。

「非常に熱心に取組んでいる」「ある程度、熱心に取組んでいる」と回答した171名に、主にどのような取組みをしているかを選択肢を示して尋ねたところ、「患者の秘密を外に漏らさない」が最も多く160名(93.6%)、「入手した情報を共有する相手を制限する」が116名(67.8%)、「カルテ等の不必要な閲覧をしない」が89名(52.0%)、「患者のプライバシーにあまり立ち入ったことは聞かない」が57名(33.3%)、「その他」が8名(4.7%)であった。「その他」の内容は、印刷物はシュレッダーにかけ、電話での問い合わせには本人確認ができないため情報を伝えない等であった。

4. 考察

4.1 「利用目的」の通知に関する病院とスタッフナースの取組み

患者から情報を収集する際には、「取得の状況からみて利用目的が明らかであると認められる場合」に該当する場合であっても「利用目的」を通知していくことが望ましいと考えられる。結果3-2に示すように、ほとんどの病院が「利用目的」を院内に掲示していることが明らかとなった中で、結果3-4の2)に示すように、2割以上のスタッフナースが、入院時の初回情報収集の際に患者に「利用目的」を必ず通知し、3割以上が通知しない時もあれば通知することもあることが明らか

になった。上述のように、あらかじめ「利用目的」を掲示しておけば、ガイドライン的には通知は省略してもよい。しかし、本調査の結果は「利用目的」の提示がされても初回入院時、日常の情報収集において「利用目的」を通知している者が多くいることが示された。このことは個人情報保護法の趣旨が医療現場にある程度浸透してきていることを示すとともに、患者の情報プライバシーの権利の擁護を考えれば好ましいことであり、より多くの病院で実践されていくことを期待する。

4.2 個人情報保護に対するスタッフナースの意識

スタッフナース自身の個人情報保護への取組みは、「非常に熱心に取組んでいる」と「ある程度熱心に取組んでいる」を併せると7割を超え、全体的に患者の個人情報保護に対する意識は高いことがうかがえる。そして、患者の個人情報の保護に「非常に熱心に取組んでいる」と回答したの方が、入院時初回情報収集の際に、「利用目的」を「どのような患者に対しても、必ず説明する」と回答する割合が多く、スタッフナース1人1人の個人情報保護に対する意識を高めることが、患者情報の取扱いをより適切に行うために有効である可能性が示された。

一方で、院内の「利用目的」の掲示について正しく把握していないの方が、入院時の初回情報収集や日常的な情報収集において「利用目的」をきちんと患者に通知していない割合が多かった。このことは、スタッフナースに対する患者の個人情報保護への意識を高めるとともに、病院としての取り組みなどについて、より周知を計ることの重要性を示していると考ええる。

5. 結語

本研究は、1つの県についての調査であり、地域性などの要因について論じることはできない。しかし、患者からの情報収集の際の「利用目的」の通知・公表を病院（看護管理者）とスタッフナースの2つの面からとらえていること、そして、直接患者に接し、情報を収集しているスタッフナース自身に入院時初回情報収集と日常的な情報収集における利用目的の説明の実態を尋ねており、患者が情報プライバシーにますます敏感になっていくことが予想される時代において、今後の情報収集のあり方を検討する貴重な情報を提供できたと考える。

本研究は、文部科研基盤研究(B)（研究代表者：太田勝正、課題番号 18390571）の一部補助を得て行った。

参考文献

- [1] 荒井則子. 個人情報保護と現場対応—スタッフステーションにおける患者情報管理—. 日本看護学会論文集-看護総合, 2006, 37: 366-368.
- [2] 浅沼優子, 山内一史, 佐々木典子, 細越幸子. 個人情報保護法施行によって看護師が直面している問題事例の検討. 岩手県立大学看護学部紀要, 2006, 8: 91-96.
- [3] 太田勝正, 井口弘子, 山内一史, 浅沼優子, 唐澤由美子, 中村恵. 看護師のプライバシーについての認識および他職種との情報共有についての実態調査. 平成15年度~平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 2007, p33-42.
- [4] 阿久津順子, 清水裕子. 電子カルテ使用における看護師の情報保護に対する認識・知識の現状と課題—アンケートによる意識調査を通して—. 日本看護学会論文集-看護管理, 2005, 35: 24-26.

表1 入院時初回情報収集の際の「利用目的」通知の状況

| 質問 | 選択肢 | 入院時初回情報収集の際の『利用目的』通知 | | | χ ² 値 | 件数(%) |
|---------------|----------------|----------------------|-------------|----------|--------------------|-------|
| | | 必ずする | する時としない時がある | していない | | |
| 所属科 | 内科系 | 18(37.5) | 21(43.8) | 9(18.8) | 15.680* | |
| | 外科系 | 10(16.4) | 26(42.6) | 25(41.0) | | |
| | 内科外科混合 | 15(26.3) | 20(35.1) | 22(38.6) | | |
| | その他(小児・母性・神含む) | 10(22.2) | 11(24.4) | 24(53.3) | | |
| 院内での『利用目的』の掲示 | 正しく把握している | 33(32.7) | 48(47.5) | 20(19.8) | 22.782** | |
| | 把握していない | 25(20.8) | 34(28.3) | 61(50.8) | | |
| 医療情報の電子化の状況 | 非電子化 | 4(22.2) | 12(66.7) | 2(11.1) | 8.224* | |
| | 電子化 | 54(26.6) | 70(34.5) | 79(38.9) | | |
| | | | | | * p<0.05 ** p<0.01 | |

表2 日常看護における情報収集の際の「利用目的」通知の状況

| 質問 | 選択肢 | 日常看護における情報収集の際の『利用目的』通知 | | | χ ² 値 | 件数(%) |
|---------------------|-------------|-------------------------|-------------|----------|------------------|-------|
| | | 毎回必ずする | する時としない時がある | していない | | |
| 院内での『利用目的』の掲示 | 正しく把握している | 13(12.6) | 32(31.1) | 58(56.3) | 11.259** | |
| | 把握していない | 9(7.6) | 18(15.1) | 92(77.3) | | |
| 入院時初回情報収集時『利用目的』の通知 | 必ずする | 12(21.8) | 14(25.5) | 29(52.7) | 47.164** | |
| | する時としない時がある | 6(7.7) | 30(38.5) | 42(53.8) | | |
| | していない | 2(2.5) | 3(3.8) | 75(93.8) | | |
| | | | | | ** p<0.01 | |